

研究所だより

的場先生のご紹介でスウェーデンから予備調査で来日されたベストフ博士に、9月7日第2回基本研究会でお話を伺いました。生協総研で本格的なシンポジウムが行われていることもあり、福祉問題で高齢者協同組合運動などとの交流ができればと企画したのですが、時間的な制約から消化不良に終わったかもしれません。ベストフ博士は、その後日本労働者協同組合連合会の永戸理事長から聞き取り調査、盛岡のセンター事業団の事業所見学、黄柳野高校へも行かれたそうです。盛岡で夕食をご一緒させて頂いたのですが、年齢を感じさせない容貌とお話で大変楽しく過ごさせて頂きました。

個人的な話で恐縮ですが、協同組合学会で「労働者協同組合運動と新原則の実践的役割」という報告をミニシンポでさせて頂きました。初めての参加でしたが、興味深い報告もあり結構楽しませて頂きました。

9月に入り、協同集会の準備に費やす時間が長くなっています。準備状況を紹介しておきたいと思います。

全体会でのパネルディスカッションを「私たちの仕事づくり地域おこし」という8人のリレートークに変更しました。課題毎に発言をお願いしたところ、報告者の人数が多くてとてもディスカッションには時間が割けないだろうということでこうなったのですが、協同集会では初めての企画です。コーディネーター役を弘前大学の神田健策先生にお願いしているのですが、重たい責任を担って頂くことになり大変恐縮しています。参加者の間では「交流会」が楽しみだという声も聞かれます。地元で取れた旬の野菜を基本に、手作りの料理を楽しんでいただく自然食レストランなどを営んでいる方々が工夫をされて、2000円という破格の安さで実現しようとしています。

分科会は労働者協同組合の基礎講座を入れて11になっています。内容はこの所報と一緒に送られるチラシをご覧ください。「東北ではどんな仕事づくり地域おこしの活動があるのだろうか」と、集会の準備を始めた頃は暗中模索という具合だったのですが、出会った様々な方のご協力を頂いてようやく1000人が集まる集会の企画がまとまったという感じです。

紹介させて頂きたい話がたくさんあるのですが、その中から、知的障害者の共同作業所「わらしべ舎」の代表中村さんから伺った話を紹介させて頂きます。「廃油から石鹸を作っています。環境の問題は勿論ですが、障害者が作っているから買って頂くというのではなく、良い商品だから買って頂くというふうにしたいと思って、匂いや黄ばみがない石鹸づくりが実現したんです。最後にする廃液も、もう一度化学分解をして、石鹸づくりの工程へリサイクルするものと最後に土に戻すものに分けています。廃液を中和して下水に流すのでは環境に悪いですから。（この技術は特許を取得している）」「障害者が豊かに暮らせる社会は皆にとって豊かに暮らせる社会だと思います。先日、灰色の点字ブロックは視力障害者に見えにくいので黄色に変えて欲しいという要望に対して、美観を損なうからできないという話がありました。何を大切にしなければいけないのかという価値観が狂っているですね」「社会が障害者を完全に受け入れることができれば、障害者施設はいらなくなると思います。障害者の施設はないことが理想です。」今年4月からようやく仙台市の補助対象施設になったということでした。6年間の苦勞がしのばれるのですが、中村さんの明るい話しぶりに聞き惚れてしまう2時間でした。

(坂林 哲雄)